



キ

リ

ス

ト

者

学

生

会

学内活動シリーズ1 祈り会

目次

1 祈り会の意義	2
2 祈り会の始め方	10
3 祈り会の持ち方	12
4 祈り会の継続における諸問題	17
5 祈り会の内容の多様性	20
6 結論	23

K G K しよう！学内活動シリーズ1

祈り会

初版 1997年7月25日

改訂版 2010年1月20日

発行者 キリスト者学生会主事会

発行所 キリスト者学生会

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル3F

TEL. 03-3294-6916

FAX 03-3294-6050

e-mail office@kgkjapan.net

100円

祈り会は、K G K運動の中でもっとも中心となる活動です。

神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、
すべての良いわざにあふれる者とするために、
あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。

第二コリント 9 章 8 節

I

祈り会の意義

1. KGK運動における祈り会の歴史的意義

キリスト者学生会運動は、祈りによって生まれ、祈りによって支えられてきました。KGKの起源は敗戦後の荒廃と混乱の中にあつた1947年にまでさかのぼります。当時、変則的な日曜授業の行われていた早稲田大学で、礼拝に出られないキリスト者学生の数人は、一教授とともに日曜日の昼休みに学生礼拝を始めました。これが契機となって、2人の学生は、毎日の祈祷会をほこりにまみれた物置のような所で持つようになりました。

この小さな祈祷会は自然発生的のように見えますが、実は戦前の一学生キリスト者の祈りの結実として生まれたものだったのです。戦前、早稲田大学の剣道部のクリスチャンの副主将は、天覧試合に出る栄誉を与えられましたが、試合が日曜日のため天覧試合出場を断念。そのことを剣道部に伝えると、即刻副主将をやめさせられ、剣道部からも退部させられたのでした。この元剣道部副主将は、神の国とともに苦しむことを選び取り、祈りを共にできるキリスト者学生の集まりが学内で起こされるように祈りを始めたのです。

初期のキリスト者学生たちの活動の中心は祈り会でした。彼らは何回となく集まり、祈りと聖書の学びに専心し、そこから新しく勇気を与えられて伝道を継続し、祈りの輪が日本の各地に広がっていったのです。

1951年5月、共産政権樹立後も中国基督者学生連盟（中国IVF）の主事として奉仕し、中華人民共和国から出てきたばかりのエドニー氏は、関西の姉妹に学内伝道のビジョンを語りました。迫害下で信仰を守り、命をかけて学内で主を証する中国人キリスト者学生のことを聞かされた神戸大学の四人の学生は、自分たちは学内で何もしていないことを示され、誰

ということもなく集まり、間もなく毎朝校庭の芝生で祈祷会を始めました。この祈りは関西地区 K G K の歴史にとって大きな意味を持っています。

このようにキリスト者学生会は祈りをもって始まりました。祈りはキリスト者学生会の運動にとって、不可欠であることは言うまでもありません。

キリスト者学生会に属する学内グループやメンバーの祈りが、その時その時の K G K の姿と伝道形態を決定した大きな要因であったと言っても差し支えありません。

「モーセ（K G K のメンバー）が手を上げているときは、イスラエル（キリスト者学生会運動）が優勢になり、手を降ろしている（直訳—休んでいる）ときは、アマレクが優勢になった。」

（出エジプト記 17 章 11 節）

祈りとキリスト者の運動には相関関係があります。現在の私たちの学内の祈りが、私たちの K G K 運動全体を左右するのだということを忘れてはなりません。祈り会の歴史的意義を、新しい世代の私たちは常に問い直す必要があります。

2. 祈り会の小グループとしての意義

祈り会は、その発生形態において、2人以上の共同の祈り会という性格を持っています。各学内において、イエスをキリストと信じる少なくとも2人の学生が、心をひとつにして祈り始める時に、祈り会が誕生するわけで、祈り会は初めから小グループの要素を持っていることに注目しましょう。祈り会は学内で小グループを生み出し、維持していく母体であるという側面を持っているのです。

私たち日本のキリスト者は、未信の大衆のただ中でマイノリティコンプレックス（少数派劣等意識）に陥りがちです。日本人 100 人、200 人の中でキリスト者は 1 人という比率は、私たちを威圧するでしょうか。それとも奮い立たせるのでしょうか。私たちは数量（quantity）によって判断しやすいものですが、品質（quality）によって価値判断をしたいものです。というのは「キリスト教の大きな運動はすべて小グループによってなされ

てきた」(キャロル・ルコック)という事実が、教会の歴史にあるからです。

小グループとは、少数の人達が、聖書の学びのため、祈りのため、日常経験の分かち合いのため、キリスト者として神と他の人々を愛し、仕えるという召命をどうすれば最善に成し遂げられるかを考えるため、定期的に集まるグループのことです。このような小グループは、教会の歴史において非常に重要でした。

教会史とは、小さい、緊密な、深い信仰を持った人々の集まりの発生による、教会の再生の記録と言えます。12人の弟子の団は「身近に置き、また遣わして福音を宣べさせる」(マルコ3章14節)ために主から召されました。18世紀の英国におけるウェスレーの信仰復興運動は、オックスフォード大学の4人の学生の「ホーリークラブ」から始まりました。ウェスレー兄弟(ジョンとチャールズ)、ホイットフィールドらです。彼らは聖書を読み、祈り、監獄を訪問し、霊的な会話を交わすことを決めました。工業国であったイギリスの労働者やアメリカの開拓地での男女の悲惨な生活に打ち勝つことのできたメソジスト運動の真髄となったのは、「クラスの集まり」- Classmeeting - 10人の会員と彼らの指導者が定期的に集まって、互いに励まし、戒め合い、成長し、祈ったことにあります。(フローレンス・ビアバウト編「教会教育」参照。聖書図書刊行会)

日本のプロテスタントの歴史の中でも、クラーク博士の指導した札幌バンド、ジョーンズ大村の指揮した熊本バンド、横浜、同志社のバンド、パークレー・バックストンの指導した松江における小グループは、今日のプロテスタント・キリスト教の重要な部分を占めています。キリスト者学生会運動は、祈り会を出発点とした、第二次大戦後における福音的學生キリスト者の小グループの運動なのです。新しく学内で聖研を始めようとしている人も、すでに学内聖研に参加している人も、この祈り会の持っている小グループの運動としての側面を、十分に理解して参加していただきたいと思います。

3. 祈り会の聖書的根拠

エペソ 6 章 18 節で、パウロはエペソの聖徒たちに、人を驚嘆させ圧倒するような力をもって祈りの重要性を説いています。

「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」

私たちは「すべての祈り」を、「すべての時に」（どんな時にも）「すべての聖徒のために」「すべての忍耐の中で」（忍耐の限りを尽くして）する事が期待されています。キリスト教は祈りの宗教です。聖書は文字通り「祈り」に満ちています。キリスト教の祈りは聖書を通して示されている神と信仰者との対話です。また、祈りとはすなわち信仰であるということができます。そしてこの祈りの根底には「心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」（マルコ 12 章 30 節）という命令があるのです。このように祈りは神と人間との間において愛と信頼を基調とする人格関係として成り立っています。聖書によれば、祈りには願望だけではなく神への感謝、賛美、悔い改めなどが含まれているのであって、神は祈りを通して、人間が神を信頼し神を知り神に服従し自分自身がいかなる人間であるかを認識するように望んでおられるのです。

この関係は、イエス・キリストを通して働かれる神の側からの、憐れみと助けがあってはじめて可能になります。

第一に、イエス・キリストご自身が、生涯における重大な危機に関してと同様、日常生活の中でも常に祈っておられたことに注目しましょう。

「さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。」（マルコ 1 章 35 節）

「このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。」（ルカ 6 章 12 節）

「祈る」また「祈り」という言葉は、4 福音書の簡潔な記録の中に、私たちの主キリストとの関連において、少なくとも 25 回使われています。さらに祈りは、復活された主キリストの、現在のお働きの最も重要な部分

なのです。

「(キリストは) ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」(ヘブル 7 章 25 節)

第二に、使徒たちも祈りを彼らの生涯の最も重要な仕事とみなしました。

「主イエスは弟子たちに決して説教の方法を教えませんでした。彼が教えたのは祈ることです。」(ムーディ)

増加してゆく初代教会の責任が使徒たちに負わせられた時、彼らは、自分たちが神のことばをあと回しにして貧しい人たちに食物を施すことはよくない、と悟り、「そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」(使徒 6 章 3～4 節)と語りました。

第三に、初代教会のキリスト者は、教会や家で合同の祈りに参加しました。使徒の働きとパウロの手紙は、キリスト者が常に互いのために祈っている姿を描写しています。

「彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」(使徒 2 章 42 節)

「こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。教会は彼のために、神に熱心に祈り続けていた。」(使徒 12 章 5 節)

もちろん個人でなされる祈りには力がありますが、合同でなされる祈りの中には、非常に大きな力があります。神は神の民たちが固く結びつくことを喜び、あらゆる方法でそれを力づけようと努めます。そして神は、合同でなされる祈りに関して特別の祝福を表明しているのです。

「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。」

(マタイ 18 章 19 節)

この祈りの結びつきが、実際になされなければならないのです。今引用された一節は「もしふたりが一緒に求めれば」という程度のことを語って

いるのではなく、「もしふたりが、どんなことでも彼らの願いについて一致して求めるならば」ということを語っているのです。ふたりの人は同じことを祈るために、そのとき心をつににするかもしれません。けれどもそこには、彼らが求めているものについての実際の一致はまだありません。一人は実際にそれを熱望しているかもしれません。しかし他の一人は、単に彼の友人を満足させるためにそれを祈っているだけかもしれません。しかし神のみこころがふたりの信仰者を、彼らが神に求めようとしているものに関して完全に調和させるとき、そこには実際の一致があります。このような祈りの中には、何者も絶対に抵抗し難い力があります。(R.A. トーレー 「祈り—如何にすべきか」 p.31 ~ 32 参照)

それで祈り会は「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイ 18 章 20 節) という約束の聖句を土台にした、小グループの祈りということができるのです。

4. 共に祈ることの意義

「私はいつも神様に個人的に祈っている。忙しい大学生活の中で共に祈る時間など必要はないと思う。」という人たちの声を時々耳にします。しかし、すでに歴史から、また聖書から見たように、共に祈る意味は絶大です。R. リンカーは、共に祈る幸いについて、友人から聞いたことを次のような言葉で紹介しています。

「祈っているときほど、人とのつながりを強く感じることはありません。また、このときほど自分自身を取り戻して安らかさを覚えることはありません。私はほんとうに祈ることが好きです。想像力が豊かになるようですし、創造的な気持ちにもなります。」(R. リンカー 「共に祈る」 p.71)

神を中心として共に祈ることで、私たちは共に祈る相手に対して率直になれます。そして相手の真実な祈りの課題を知り、その人のためにもっと祈りたいという思いが起こります。また、私たち自身が正直に心の思いを告白し、共に祈ってもらうことで、自分自身の魂に平安が与えられます。

さらに私たちは、共にとりなしの祈りをした人たちに対して、関心が育ってくるのです。私たちは彼らに対して、どうしたら慰めを与えたり助けられるかを考えるようになり、そこから創造的な行動（たとえば手紙を書いたり、電話をしたり、会う約束をしたり）が生まれてくるのです。

5. 祈り会と個人の祈り

KGKの各メンバーが、それぞれ各自の静思の時（ディボーション）の訓練を受け、忠実に実行する者でないならば、KGKの共同体としての祈りの生命は、躍動し繁栄することはないでしょう。KGKの指導的立場にある学生や主事には、KGKの各メンバーがこの点について成長するように励ますためには、どんなことでも行う、という牧会的責任があります。

小グループのメンバーに共通した生活の中心とは、神との交わりです。祈り会は祈りを第一の目的として始まります。共に祈ることにおいて成長するためには、各メンバーが毎日祈りを実行することが本当の源となります。グループの祈り会は、それだけが生活から浮き出たものであってはなりません。むしろ、互いにバラバラになって生活している時に、各自の生活に神が着々と起こしてくださっていることが、祈り会で分かち合われ、広がっていくのです。メンバーが静思の時を続けることに困難を覚えているときには、リーダーは短い時間で静思の時について分かち合うとよいでしょう。若いキリスト者は静思の時についての励ましと、基礎的な教えを受ける必要があります。全てのキリスト者が、毎日の祈りやみことばによる神との交わりの必要を、自然に身につけるだろうと思っはなりません。KGKのメンバーのうちには、個人的な祈りの重要性や静思の時の持ち方について、一度も教えられたことのない人がいるかもしれないのです。KGKのプログラムがこの点を助けるために組まれる必要がありますし、よい書物が紹介される必要があります。

「静思の時」(J.D.C. アンダーソン編著　すぐ書房)を、各自が手に入れて、祈りの生活の原則を個人の祈りに適用したいものです。個人の信仰生活、霊的生活の確立と不断の自己訓練が、個人の敬虔・成熟を生み、学内

K G Kの祈り会の霊的生命を燃やすのです。(イギリス UCCF の「The CU's PrayerLife」 p.1 参照)

6. 祈り会の生命的意義

K G Kでは、日曜日以外の毎日学内で集まって祈り合う D P M (Dairy Prayer Meeting・例日祈祷会) を強調してきました。K G K運動が個人的人格的深みを持ち、共同体的交わりの場を提供できるのは、活動や運動の背後で常に祈り会を持ち、それを強調してきたからです。K G Kの活動の土台が祈り会であることは、K G Kの起源に見られ、現在の学内活動でも変わらない原則です。DPM は学内活動の生命線と言われてきました。初期には、学内に K G Kのグループを作る時、まず聖書研究会ではなく D P Mを始めてから他のことを決めなさいと強調したものです。キリスト教運動は、祈りに由来するからです。(使徒 1 章 14 節、13 章 2 節)

K G K運動において DPM とは単なる例日祈祷会ではありませんでした。「祈祷会」というとそれはもはや組織の行事の一つに墮してしまいます。しかし DPM は一つの行事ではなかったのです。それは K G Kの重心だったのです。それが定まって他の一切が動く定点なのです。それは、マニアが集まって毎日聖書を読み、祈りをするだけの交わりの会ではないのです。

生きた宗教とは祈りです。私たちは祈り会において、すべての事について常に祈るべきことを学ぶのです。祈りはメンバーの交わりと協力を前提としてようやく始まるものではなく、逆に交わりと協力へのきっかけとなるものです。これこそ生きる有機体としての学内グループの新しい力を見いだす道なのです。祈り会こそ、全生活を通しての証し、学生主体の運動、個人的、人格的、信仰的影響力をわき出させてきた水源なのです。それなしには、K G K運動のいろいろな特徴は考えられないのです。祈り会からは、一切の可能性が出てきます。祈り会は、キリスト者学生の霊的成長と信仰確立のための、聖徒の交わりというキリスト教的雰囲気をもっとも適切に生み出すものだからです。

2

祈り会の始め方

あなたの学内にKGKのグループがある場合には、おそらくすでに祈り会があると思います。学内にKGKのグループがない場合、祈り会を持つにはどうしたらよいのでしょうか。

必要なものは以下の通りです。

1. イエス・キリストに対する信仰と個人的確信
2. 試してみよう、率先してやってみようとする自発性
3. 自らが必要とし、希望しているものについて少なくともひとりまたはふたりの他の人と率直にわかちあおうとする態度

では次に、実際にどうしたらよいかを考えてみましょう。

1. 神がみこころを示して下さるように祈る

1. あなたの祈りの生活を含めて、神に新しく献身しましょう。神に喜んでいただけることを何でもやろうと決心するのです。
2. 「私の祈りの生活はどのようにしたらもっと目的をもつものとなるのだろう？」と自分に問いかけてください。神の約束と祝福を探し求めることを決意しましょう。
3. 学内における祈りのグループの可能性について考え、自分がその一員になることができるように神の助けを祈り求めましょう。

2. 他の人が加えられるように祈る

1. 神があなたに語りかけておられるように、他の人にも語って下さることを信じましょう。
2. 神が、あなたと祈りを共にするように召している人を、まわりを探しましょう。学校のクラスの中や、いろいろな出会いの場面で、信仰者を探しましょう。地区の委員や、主事たちからの情報を積極的に入手しましょう。
3. そういう人に出会ったら、その人にあなたの願いをうちあげましょう。祈り会という小さなグループは、計画的に組織することはできません。重荷がある人々の渴望と信仰と決心が、聖霊の導きと一致した時、グループが発生するのです。

3. 聖霊が祈り会を完成して下さるように祈る

1. 祈り会について、その持ち方について、他の人の参加について、いろいろな考えをわかち合しましょう。
2. 2,3人のメンバー候補者を集めることが出来たら、集まりの目的を明確にし、グループの全体的な性格を理解してもらいなさい。彼らに祈り会を持つことの必要性和祝福を伝えなさい。祈り会を形成しようという決断は、いつでもメンバーの強い興味と必要感を基盤としなければなりません。
3. 祈り会が軌道にのるまで神の導きを求める訓練に従いましょう。
4. 決断がなされた後は、継続的実行を心がけ、神のみこころに従って共に成長しつづけなさい。そのためには各人に、自分は主の前で誠実に約束を果たして祈るのだ、という意識が必要です。(R.E.Coleman「Introducing the Prayer Cell」p.15～17参照)

3

祈り会の持ち方

祈り会は気まぐれから始めるものではありません。神の前にしっかりした信仰を持つための、学内活動の力の源泉であることを覚えて始めましょう。では祈り会はどのようにして持ったらよいのでしょうか。

1. 祈り会を何度、持つべきですか

キリスト者学生会に所属するメンバーが学内で1週に少なくとも1度、祈りのために集まらなければ、どの学内グループも、学内における神の御計画を成就することはできません。このことは、経験が私たちに教えています。大抵の学内では、週に数回の祈り会を持っていますが、いくつかの学内では文字どおり、毎日DPM（Dairy Prayer Meeting・例日祈祷会）を持っています。たとえ今すぐには無理に見えても、祈り会を始めようとする者たちは、学内グループが神に祝福されて、1週のうち授業のある月曜日から土曜日まで常に祈りが献げられるDPMを持つグループになることを、最終目標として始めようではありませんか。

2. 祈り会を、いつ、どこで

祈り会の時間は、各々の学校の授業やその他の環境によって左右されますが、日本の学校の環境では、多くの場合昼食時が祈り会に最適のように思えます。

第二の可能性は、朝、講義の始まる前に祈り会を持つことです。日中は騒々しいキャンパス内も、授業開始前の朝はとても静かで、爽快な思いで集中的に祈れますし、その日の学内での生活のために、共に祈れる喜びを体験できます。ただし、朝祈り会を持つ時に注意したいことは、学内

の祈り会が各人の朝の静思の時の代わりになってはいけないということです。昼食時を選ぶ時には祈り会の前後に昼食をとることができるように配慮しましょう。朝や午後は全員が集まりにくいかもしれません。なるべく全員が集まれる時間を選びましょう。

普通学内の祈り会は20分位、長くて30分位にするのが適当です。特に毎日する場合はそうです。始まりと終わりの時間厳守は大切な要件です。私たちは約束の時間に5分ぐらい遅れてもよいと思いやすいものですが、祈り会ではこの5分のズレが生命とりになりかねません。他のキリスト者学生が忙しさの中からやっと時間通りに来ていても、あなたが5分遅れたために、祈り会を始める時の志気が低下し、祈り会継続の障害となるのです。時間厳守！

場所も重要です。あまりにもあらたまった雰囲気をかもし出したり、神への畏敬をあまりにも困難にするような場所ではなく、小さな、静かな（しかし豪華すぎない）部屋を使用できるようにして下さい。部室のある学校は問題ないのですが、それが無い学内では、各自の知恵と熱意とをもって、校庭の芝生、使っていない教室、屋上などを利用します。意志のあるところには常に道は開けるのです。部室をもっているところで祈り会をする場合、いつも整理整頓に心がけたいものです。花などを部屋に飾ることはとてもなごやかな雰囲気をつくります。毎日学校の部屋を借りる場合には、責任者が学校の事務局などに所定の手続きをとるようにして下さい。

3. 祈り会で、どんなことを

集会は賛美、聖書朗読、それについての短いメッセージ、祈りの課題の提出、祈り、賛美といった内容が一般的ですが、必ずしも全部行う必要はありません。

1. 賛美・・・時間の短い時には1、2節、時には全部省略してもよいでしょう。歌うときは心から神を賛美しましょう。
2. 聖書の朗読・・・司会者の選んだ箇所を読むのもいいですが、年間のプログラムや日課表を作り、それに従ってもよいでしょう。聖書同

盟の「みことはの光」等を利用するのも一案です。朗読の他に交読や輪読してもよいでしょう。

3. メッセージ・・・読まれた聖書の箇所から、祈りの備えや指針になることとして、司会者が聖書から教えられたことを一言二言説明します。司会者は前もって自分が開く聖書の箇所を十分学んで祈り会にのぞむことが大切です。聖句から離れた関係のないただの感想にならないようにしましょう。司会者はみことばの奉仕にあずかっているという意識をもってのぞんで下さい。証しを加えてもよいでしょう。
4. 祈りの課題の提出・・・聖書から教えられた事について皆が祈るだけでなく、グループとしての祈りの課題を持って祈ることも必要です。私たちの生活の問題を具体的に祈り合うことが祈り会の生命です。そのために、司会者は祈りの課題を前もって集め、提案するようにしましょう。この時間は長くても5分を超えないようにしましょう。1つ1つの祈りの課題を簡潔に話しましょう。(賛美1、2分、祈り1、2分、聖書朗読2、3分、メッセージ3分位、課題の提出3分位、祈り5～7分、賛美2分位。これで大体20分になります。)
5. 祈り・・・言うまでもなく祈り会では「祈ること」が中心です。ここに十分に時間をあてることができるように注意しましょう。祈りの課題をあげるとき、簡潔で要領を得た話し方をしないと、祈るべきことの説明で終わってしまいます。

4. 祈り会で何を祈るか

祈りの課題も、毎日同じようなものばかり並べて祈るのではなく、毎回の変化の中で私たちの責任を自覚させる工夫も必要です。また、自分たちのことばかりでなく、広い視野に立った祈りも必要です。例えば、毎日祈る場合は、以下のように分けてみます。

- (月) 大学職員や教授の救いのために。
- (火) 自分たちの周囲の友人のために。

- (水) 地区と全国K G Kの働きと主事のために。
- (木) グループと卒業生のために。
- (金) 海外宣教のために。
- (土) 各自の教会の働きのために。

毎回の祈り会には、礼拝、感謝、告白、とりなし、願い、献身が多少なりとも取り入れられるべきでしょう。(「静思の時」p.53～63参照)

祈り会で、祈りの課題をノートに記録することは、大きな励ましになります。また、祈りが答えられたら、そのことも記録して主の業を共に感謝しましょう。祈り会(Prayer Meeting)のPが、Praise & Prayerになるならば、素晴らしいことです。

5. 祈り会でどのように祈るか

祈り会での祈りの方法はいろいろあります。特定の方法にとらわれずに、適当な変化をつけることもよいでしょう。特に人数が多くなってきた場合には、できるかぎり大勢の人が祈れるような工夫が必要です。いくつかの方法をあげてみましょう。

- 各自が順に祈る
- 導かれた者数人が祈る
- 全員が同時に静かに祈る
- 出席者をいくつかのグループに分けて祈る
- 2～3人ずつで祈る

「会話の祈り」

短い時間内で集中して祈るために、「会話の祈り」という方法があります。そのやり方は以下の通りです。

1. 祈り始める人と、祈り終える人を決める。
2. 1つの課題ごとに導かれた者が何人か祈る。
3. 各自の祈りは簡潔に、1つのことについて短く祈る。
その際「主の御名によって祈ります。」という結語はつけないで祈る。
4. 同じ課題について何人かが祈るとき、同じ内容をただくり返さず、前の人からの祈りを受けて、付加、発展させる。
5. ひとくぎりついたら、しばらく待って次の課題に移り同様に祈る。
6. 最後に閉じる人が、「主の御名によって祈ります。」と結ぶ。

この方法なら、短い時間しかなくても、1人の人が何回でも祈ることができ、かつ全員が参加して1つの祈りをすることができます。「心を開きさえすれば、だれのために祈るか、いつ祈るかは聖霊が導いて下さるでしょう。」(R. リンカー「祈り—神との会話—」 p.35) R. リンカーの本は、他にも祈りについて多くの示唆を与えている良書です。

4

祈り会の継続における諸問題

1. 不調和

祈り会の席上の問題は、私たちの育ちや気質、教会の違いなどによってもたらされることが多いのですが、高ぶりと偏見をもたずに、お互いに理解と尊敬をもって祈れるようにすべきです。長く祈る人がいるかと思えば、祈らない人、雑音を入れる人、出席しない人などがいます。一人一人が短い祈り会を盛り上げるために、調和を考えて謙遜に参加したいものです。

2. マンネリ

祈り会を長く続けていると、その目的と動機が不明瞭になります。ですから、上級生は祈り会の理念とスピリットを後輩に伝えていく不断努力を心がけましょう。「祈りのグループは、メンバーが自分たちの楽しい交わりにふけり、その交わりを目的とすることに満足するなら、危険であり、有害なものにさえなります。一つのグループの健全性はそのグループが会合をもっている時にはわかりません。グループの会合が終わった後にわかります。」(Elton Trueblood「The Company of the committed」 p.79 参照)

3. 形式化

形式的になり、惰性になり、祈り会の持つ宗教的方法や手段に対する関心だけになって、その目的を忘れてしまう時に、祈り会は衰えます。

4. 出席数で満足

学内祈り会が十人を超えると、多くの出席者が参加者ではなく傍観者に

なる危険があります。また、学内グループ全体の伝道への意欲が低下して、内側にこもった交わりになる危険があります。そうなると、祈り会も内向きとなり、祈りが生気のないものになります。

5. 未信者への配慮ではなく遠慮

祈り会を未信者とのおしゃべりに変えてしまうことは、学内活動の生命線を自ら断つことです。それは未信者への配慮になによりも必要な、神からの原動力を得る営みを放棄することです。ミイラとりがミイラになってしまわないように、十分警戒しましょう。未信者は、私たちの祈りを見て神の臨在を感じるのです。

また、このような祈り会を支えるものは、個々人の静思の時であることを覚えましょう。個人の静思の時がおかしくなると祈り会もおかしくなり、結局有名無実になるのです。

6. 各自の神との関係の問題

クリスチャンと言っても、洗礼を受けていても回心していない、名前だけのクリスチャンがグループの中心人物だったり、グループの大きな存在になっている時に、どうしても全員が祈りにおいて一致できないことがあります。各々自分が信仰にとどまっているかどうか反省する必要があります。

「あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。」(第二コリント 13 章 5 節)

グループのメンバーの生活にある罪を、自分自身のものとして祈りなさい。信仰から落ちた兄妹を回復するために、全力を尽くしなさい。

7. 司会者の準備不足

祈り会が崩れてきたり、内容の乏しいものになる原因の一つとして、誰も祈り会のために何の備えもして来っていない、ということがあります。気

心の知れた数人の仲間で祈るときは、その場で自発的に祈れますが、5人以上の場合は、決められた司会者が短いメッセージ、証しの用意をしていくことが必要です。

【対策】

これらの問題は、祈り会を続けていくとき、どうしても起こりがちなことです。そのために以下のことを心掛けて下さい。

1. 役員やリーダーがいつも祈り会の吟味をすること。
2. 年に2、3回、全員で祈り会について反省し、学び直し、祈り会のために祈る時を持つこと。

5

祈り会の内容の多様性

私たちは、祈り会を継続させるために、自分の責任を忠実に働かせる必要があります。日々互いのために祈り、グループ内でお互いに配慮をしたいものです。祈り会に集う兄弟の団結を強め、互いにすべてのことを愛をもって行いましょう。

私たちは「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長」（第二ペテロ 3 章 18 節）したいものです。

以下のことを検討してみてもいかがでしょうか。

1. 時々何かよいディポーションナルな本と一緒に読むことによって祈り会を始めてもよいのではないのでしょうか。例えば、E.M. バウンズの「祈りによる力」などを、毎日一章ずつ読むのも良いでしょう。「朝ごとに」（スポルジョン著）などの通年の霊想書や聖書日課などもよいと思います。聖句暗唱をこの中に加えてもよいのではないのでしょうか。
2. 祈りの目的となる働きや奉仕を、自分の生活の中で見つけましょう。個人伝道が、祈り会の交わりを通して促進されるかもしれません。友人が救われるように祈り、伝道することは祈り会を生かし続けるものです。外への働きかけの多様性は祈り会を生かすのです。
3. 祈り会のやり方を、ときにはグループの必要に応じて変えてはいかがでしょうか。どんなやり方にも絶対的なものではありません。祈りの交わりを支配すべき原則を守るのなら、どのような方法でもよいのです。祈り会を聖書の学びや、証詞、賛美に強調点をおいて行ってもよいでしょう。ゲストを内外から迎えるという可能性もあります。

4. 祈り会の聖書の読み方を変えてみるのもよいでしょう。詩篇を一篇ずつ読んでもよいでしょうし、箴言を一日一章ずつ読めば31回で読み終わります。聖書朗読やメッセージの箇所について、教会暦(Church Calendar)に従って決定するのもよいでしょう。キリスト者は、レント、受難週、イースター、ペンテコステ、そしてアドベント、クリスマス等の意味を常に考えながら、キリストの御足の跡にならってゆく習慣をつけたいものです。祈り会のテーマを教会暦に合わせていけば、やる事がなくなってしまうという声は聞かれないはずで、祈り会のテーマについては、柔軟性を持つべきで、新入生歓迎の4月、オリエンテーションの5月など、学内伝道集会、地区の行事の時期に合わせて、テーマを考えるものよいでしょう。全国K G Kウィーク、O Bウィーク、I F E Sウィーク、教会ウィークなどというものを決めて、一週間そのことのために集中して祈るのもよいでしょう。
5. 祈り会のテーマを「一週における神との交わり」として、ある期間続けるのも一つのやり方だと思います。このやり方は、個人の静思の時に有益な方法です。グループ全体でやってもよいでしょう。ここでは日曜日のテーマも入れてありますが、これは個人の静思の時に用いて下さい。日曜日から土曜日まで、一日一日の各曜日に個々のテーマを決め、そのテーマにあわせた聖句(あるいは数節、章全体)そして、讃美歌、聖歌、ワーシップソングや詩などを読み上げ、そのテーマに沿った祈りをするというやり方です。
- (日) 創造、新創造、休息の日、復活の日、主の日。
(月) 行動、活動の日、勉学、キリストに従う。この世の収穫のために遣わされるように。
(火) 誘惑、誘惑に対する戦いの日。第一コリント10章13節、ヘブル4章1～2節
(水) 家族、友人、私たちの生活の中心などの microcosmic world (小世界)。ヨハネ19章26節
(木) 教会、政府、国家などの macrocosmic world (大世界)。
(金) 十字架、苦難の現実、不正、悲惨、貧困、飢餓。ルカ9章23節、

マタイ 25 章 35 ～ 36 節

(土) 死、最後の日、審判。ピリピ 1 章 21 節 (Dr.Hans Burki 講演
「Communion with God during the week」より)

6. 祈り会のテーマに、宣教ということを中心に組んでもよいでしょう。日本人宣教師が遣わされている国々について祈ることや、J O M A (Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会) や各宣教団体の発行しているニュースレターを入手したり、ホームページを参考にしながら、宣教強調週間をもうけるのもよいと思います。各地区 K G K が発行しているプレーヤーカレンダーなども積極的に活用してください。
7. 時には祈りの課題なしに、祈りのために祈り会に集まるのもよいでしょう。その時には、答えられた祈りに対して、神に感謝をあらわし、聖霊が導かれるまま祈るのです。課題が多いと、祈りの課題がショッピングリストのようになり、とにかく消化すればよいのだという気持ちになることを警戒しなければなりません。礼拝、賛美、感謝、告白のすべてが、祈り会において正しい役割をもつようにしたいものです。これらが見過ごされると、祈り会は鈍く、生命がなくなるのです。

6

結論

ある学内グループの年度末の合宿で、毎日の祈り会の継続の是非が話し合われていました。「昼休みしか未信者の友と話せない」「祈り会の参加者は結局いつもわずかだった」「むしろ祈り会の時に求道者向きのプログラムを組んだら」など、祈り会についての消極論が出されました。しかしひとりの4年生が、自分にとって祈り会が学生生活の中で、そして4年間のグループの歩みの中でどれほど大きな意味を持ち、恵みの源であったかを証したとき、下級生のひとりが「それほど大切なものとは知らなかった。ぜひ、続けよう。」と主張し、結局次年度も続けることになりました。

このことから二つのことを見ることができます。第一は、祈り会を意味あるものとして続ける力は、祈り会を通して神の恵みを体験した人の確信ある生きたあかしにあること。第二は、多くの参加者は、祈り会の持つ意味の重要性を教えられずに、また、生きた証しを聞かされずに、ただ続けているということです。そのため、毎年、K G K運動で最も重要な砦の一角が崩される危険が常にあります。

A.G. ゴードンは言いました。

「もし神の民が粘り強く祈り続けていたら、福音はずっと以前に全世界に行きわたっていただろう。それが遅れている原因は、多くの障害物のせいではなく、祈りの不足にある。善と悪の軍隊は、お互いにこの世を取り合って戦っている。もし、私たちが祈るなら、善の軍隊の征服力は増すことになるのだ。しかし、私たちのくちびるは閉ざされ、両手は力なくたれ下がっている。そして、祈りから遠ざかることによって、深い関心を持っていると公言しているその源を、危険にさらしているのである。サタンは祈りの力を信じている。そ

れを恐れている。そしてしばしの間、その結果を妨害できるが、結局祈りがサタンを征服してしまうのだ。祈りは彼の計画と、彼自身を打ち負かしてしまう。サタンは祈りの前に勝利をとることはできないのだ。」(アンドリュー・マーレー「絶えず祈りなさい」p.8～9 参照)

日毎にみことばの支配のもとに自分を屈服せしめ、祈りにおいて聖書の導きに自分を委ね、同じ信仰の友と、祈りの交わりで重荷を分かち合うとき、私たちははじめて神の栄光を拝しうるものとなるのです。

KGKに属する私たちは、祈りの力を祈り会に結集しようではありませんか。